

<様式1>

令和3年度 さいたま市立七里小学校 自己評価書

校長 保坂 泰司



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 「学力向上」

- ①学校は、わかりやすく、子どもがしっかり考えて学べるような授業を行っている。
- ②学校は、教材を工夫したり、教え方を改善したりしながら学習を行っている。

(2) 「生徒指導・教育相談の充実」「道德教育の充実・人権意識の高揚」

- ①学校は、道德の時間や全教育活動を通して、人を思いやる優しい気持ちや生命を尊重する心を育てている。
- ②学校は、あいさつや生活のルールなど、学校生活に必要な決まりについて、自ら守れるようわかりやすく指導している。
- ③学校は、子どものなやみやいじめなどのトラブル等について、適切に対応している。

(3) 「地域との連携による学校運営」

- ①学校は、家庭や地域の方々の願いをくみ、保護者からの相談や要望に適切に対応している。
- ②学校は、学校だよりや学年だより、Web ページ等を通して、教育方針や教育内容、コミュニティ・スクール等について家庭や地域にわかりやすく伝えている。

2 評価結果について

- (1) 「当てはまる」「大体当てはまる」の肯定的な評価が、①で93%、②で95%であった。基礎・基本の確実な定着の徹底を学校全体で共通理解を図り、研修として取り組んだ成果として表れている。
- (2) ①は98%、②は97%、③は90%を超える肯定的な回答を得た。特別活動や特別な教科 道德をはじめとした授業や行事などを通して、児童の心を育てる教育を推進した。また生徒指導において共通理解・共通指導を行い、組織として問題行動の早期発見早期対応を進めることができた。
- (3) ①は94%、②で96%が肯定的な評価である。学校の様子を毎日 Web ページで地域に公開していることや、学校運営協議会での取組を校内掲示や学校だより等での周知を図ったことの成果が表れている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 特別活動での話し合い活動の研修により、全学級統一した指導を進め、児童一人一人が自分の意見を持ち、他者に伝える力を向上させる研究を推進していく。引き続き学力のベースとなる「基礎・基本事項の定着」をより徹底していく。また、令和5年度から実施する教科担任制の円滑な実施に向けて実践を重ね、効果的な体制について検討していく。
- (2) 児童の健やかな成長を促すために、何事も「未然に防ぐ」「早期発見・早期対応を確実に行う」ために、各主任を中心とした機動力のある組織として、日頃から機会をとらえて全教職員の共通理解・共通行動の徹底を図る。
- (3) 学校運営協議会との連携をより強固にし、学校の経営方針の具現化を図るために協働して取り組む活動を実施する。また、行事等の精選を図りながら、保護者や地域と一体となった学校づくりをさらに推進していく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。